

個人投資家の皆様へ 三井物産会社説明会



mitsui & co.

2020年3月
三井物産株式会社 IR部
証券コード:8031

目次

1. 会社概要
2. 今期の重点施策
3. プロ人材
4. 2020年3月期第3四半期実績と
現中期経営計画期間の成長
5. 株主還元

1.会社概要

挑戦と創造のDNA



眼前の利に迷い、
永遠の利を忘れるごときことなく、
遠大な希望を抱かれること望む。

旧三井物産 初代社長 益田孝

志を受け継ぎ、価値創造に挑み続ける

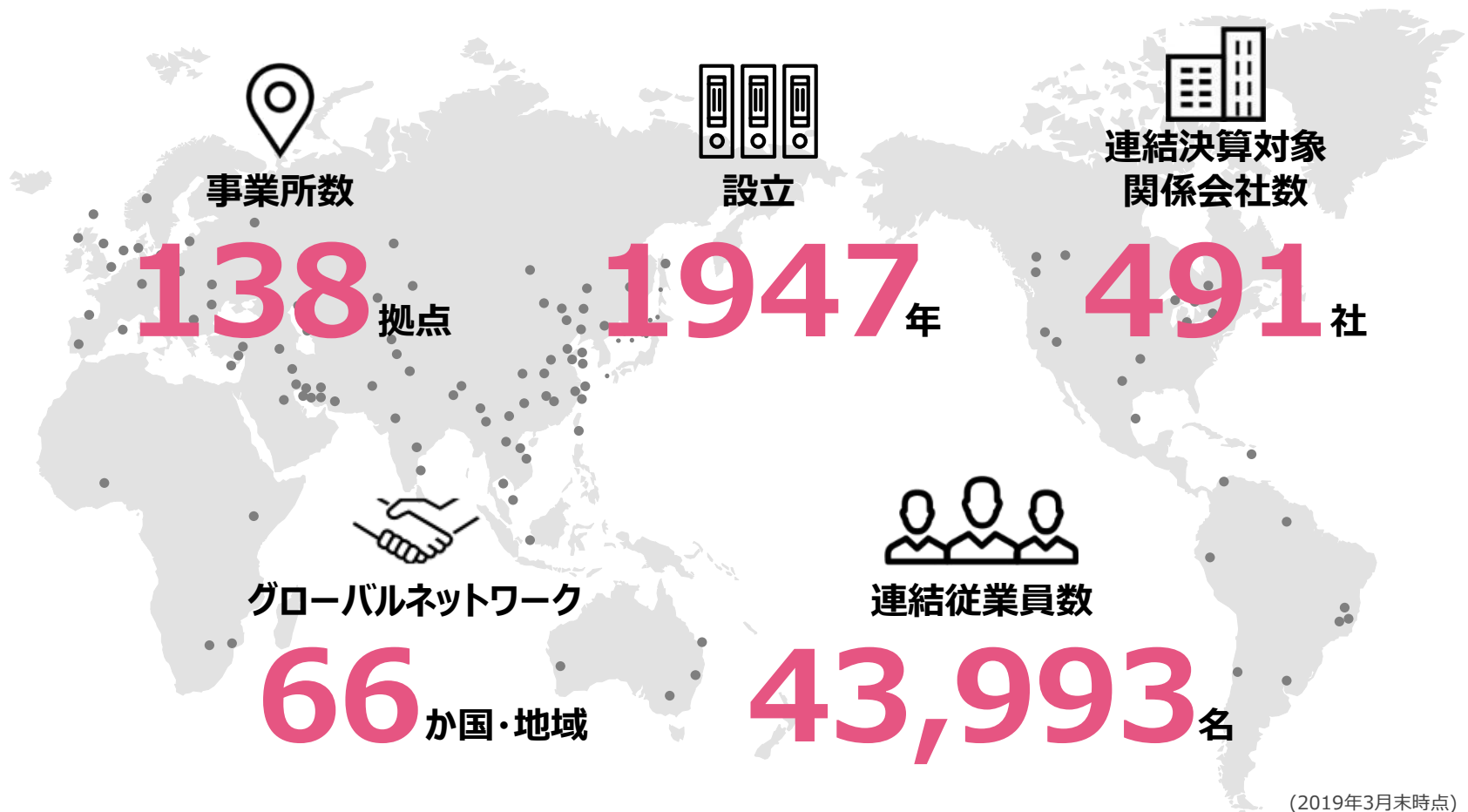
人が仕事をつくり、
仕事人が人を磨く。

三井物産 元会長 橋本栄一

三井物産の社員は
高い使命感のもとに
常に勇敢であれ。

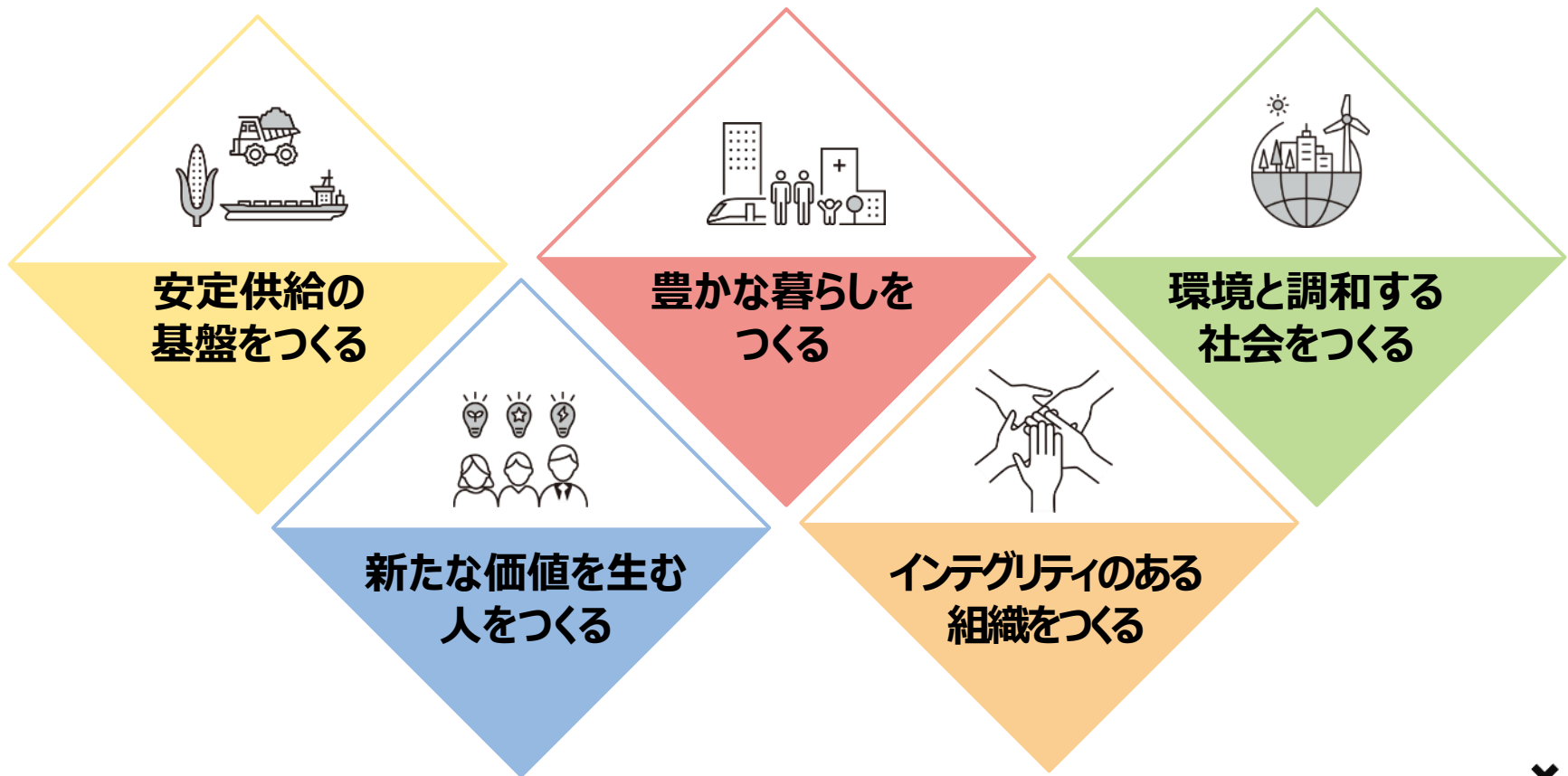
三井物産 元会長 水上達三

数字で見る三井物産



三井物産が目指すもの(マテリアリティ)

ESG(環境・社会・ガバナンス)や国連「持続可能な開発目標(SDGs)」等、サステナビリティの重要性は高まっており、変化するメガトレンドを踏まえて2019年4月に見直し。



中核分野



成長分野

モビリティ

米国Penske Truck Leasing

ヘルスケア

ニュートリション・
アグリカルチャー

リテール・
サービス

ビギホールディングス

三井物産の総合力

各営業本部が蓄積し、築き上げた各商品や各地域の地場の情報など知見やノウハウを組織の枠を超えて共有、応用するとともに、総合商社としての機能をかけあわせて、事業の価値を創出する。

商品軸

15営業本部



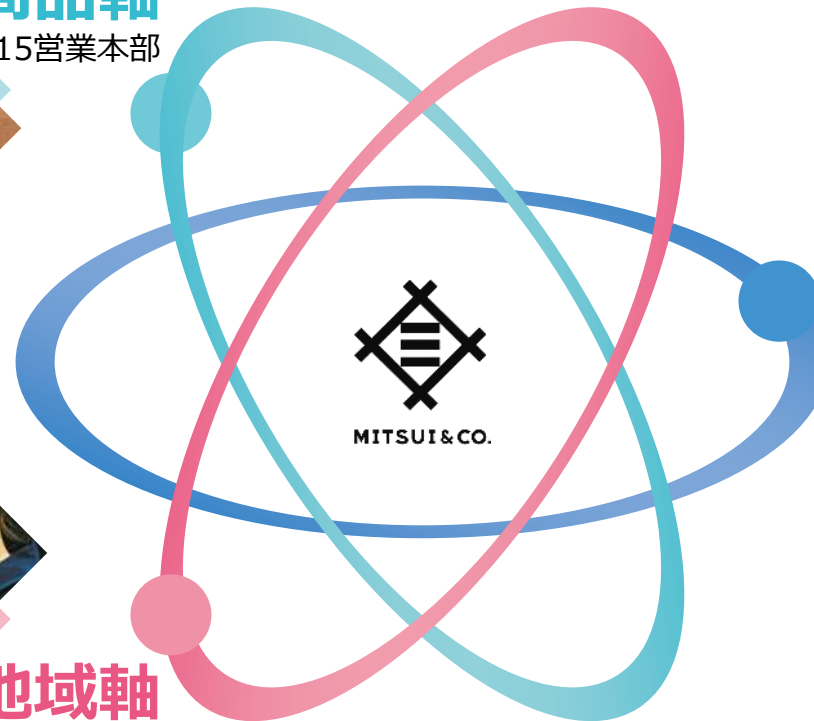
機能軸

販売・ロジスティクス・ファイナンス・
リスク管理・デジタル



地域軸

アジア・米州・欧州
3地域本部



アフリカでの取組事例

アフリカが抱える食料課題

- ◆天候不順に伴う農作物の不作
- ◆過耕作、不適切な土地利用による土壌の劣化
- ◆小規模農業の生産効率の低さ
- ◆灌漑設備の不足



生産性向上、事業多角化による経済発展への寄与

2. 今期の重点施策

2020年3月期の重点施策 「環境と健康」

環境

金属

機械・インフラ

化学品

エネルギー

- ◆ LNG案件の推進
- ◆ 再エネ・次世代電力の取り組み
- ◆ 車体軽量化、電動化、リサイクル事業

モザンビーク LNG



北米 太陽光発電



欧州 電気バス

健康

化学品

生活産業

次世代・機能推進

- ◆ アジア病院・周辺事業
- ◆ 未病対策事業
- ◆ シニアリビング事業

アジア 病院



北米 未病対策



北米 シニアリビング

映像 「環境」への取り組み

事業を通じた気候変動への取り組み 経済・社会・環境全ての価値を同時に追求

LNG事業



©Novatek

再生可能エネルギー



社有林



「健康」への取り組み

病院とその周辺事業
(人材・モノ・サービス・情報)



2011年
アジア最大民間病院・IHHへ出資参画

2018年 IHHの筆頭株主へ

参画後の主な当社取組み

- ◆ 成長戦略立案
- ◆ 地理的な拡大支援
- ◆ 資本戦略策定・推進
- ◆ 経営基盤強化

**当社参画後7年で
EBITDAは3倍へ**

2011/12 US\$218mil
2018/12 US\$613mil

**ヘルスケア
医療**

未病対策



**高機能サプリメント
個人毎の栄養**

食・健康



高品質・中食

**シニア
リビング**



**サービス付き
高齢者向け住宅**



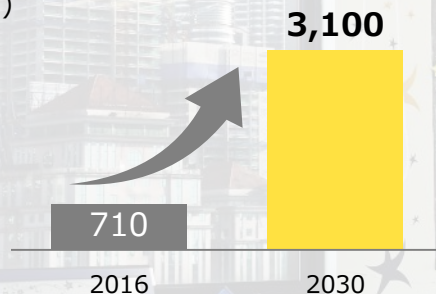
アジアにおけるヘルスケア市場と当社成長戦略

アジアヘルスケア市場

経済状況に左右されず
加速度的に成長

アジア※における医療費拠出額の推移

(USD bil)



※東南アジア+中国+インド

(出典)OECD、世界銀行、当社推定

当社成長戦略

地域
の広がり

機能
の広がり

新規事業
の広がり

人口・所得増 × 高齢化 × 疾病構造変化

(2019年3月末時点)

医療データ活用

入院患者

外来患者

約60万人/年間

約600万人/年間

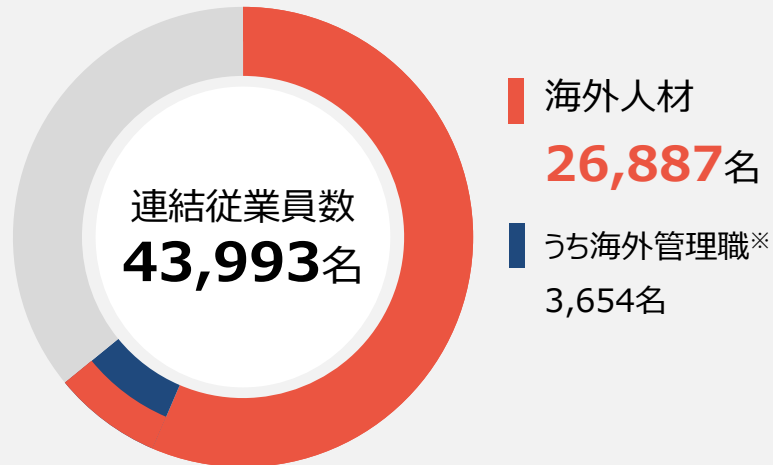
3.プロ人材

高度な事業ノウハウを兼ね備えたプロ人材

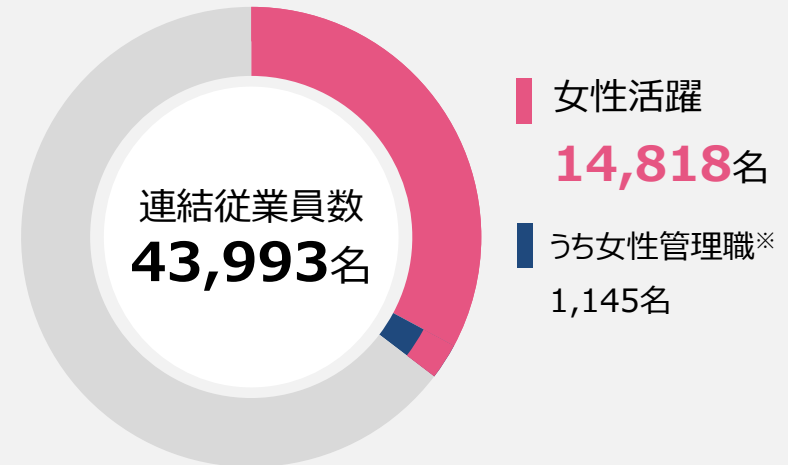
三井物産にとって最大の資産は人材。地域、事業領域、商品に精通した「その道のプロ」が多種多様に存在し、ビジネスを創造し、育て、新たな価値を生み出し続けている。

人材の総戦力化

勤務地



女性比



※現地労働法上の管理職

(2019年3月末時点)

4. 2020年3月期第3四半期実績と 現中期経営計画期間の成長

経営成績サマリー

- ◆ 当期利益、基礎営業キャッシュ・フローともに順調な進捗
 - 金属資源・エネルギーはモザンビーク石炭・インフラ事業にて減損を計上するも、総じて堅調
 - 非資源分野は機械・インフラを中心に底堅く推移し、概ね予定通り進捗

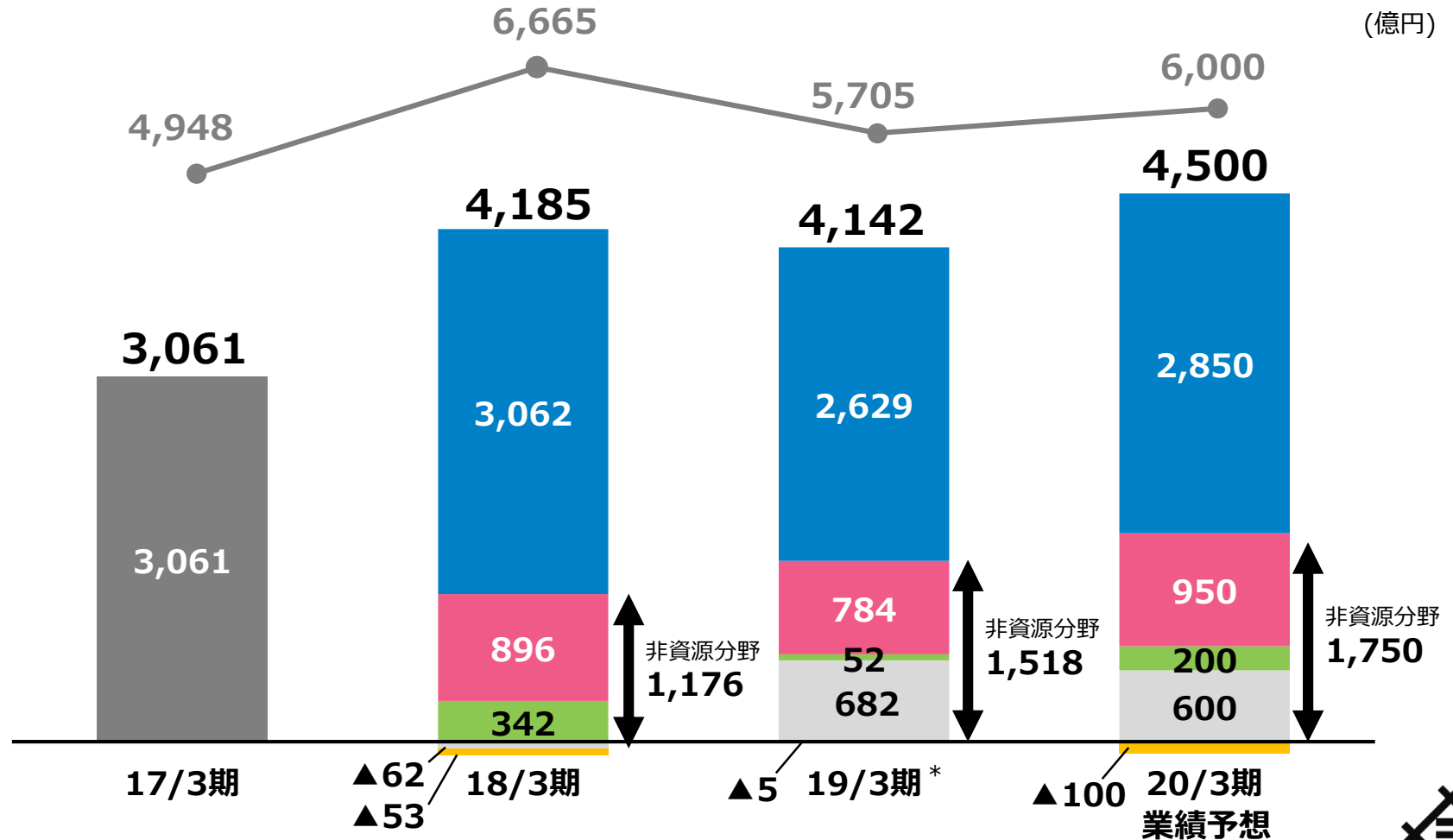
(億円)

	19/3期 第3四半期実績	20/3期 第3四半期実績	増減	20/3期 業績予想 (2020年2月公表)	進捗率
当期/四半期利益	3,501	3,351	▲150	4,500	74%
基礎営業キャッシュ・フロー	4,921	5,168	+247	6,000	86%

(2019年12月末時点)

現中経期間中の成長(当期利益)

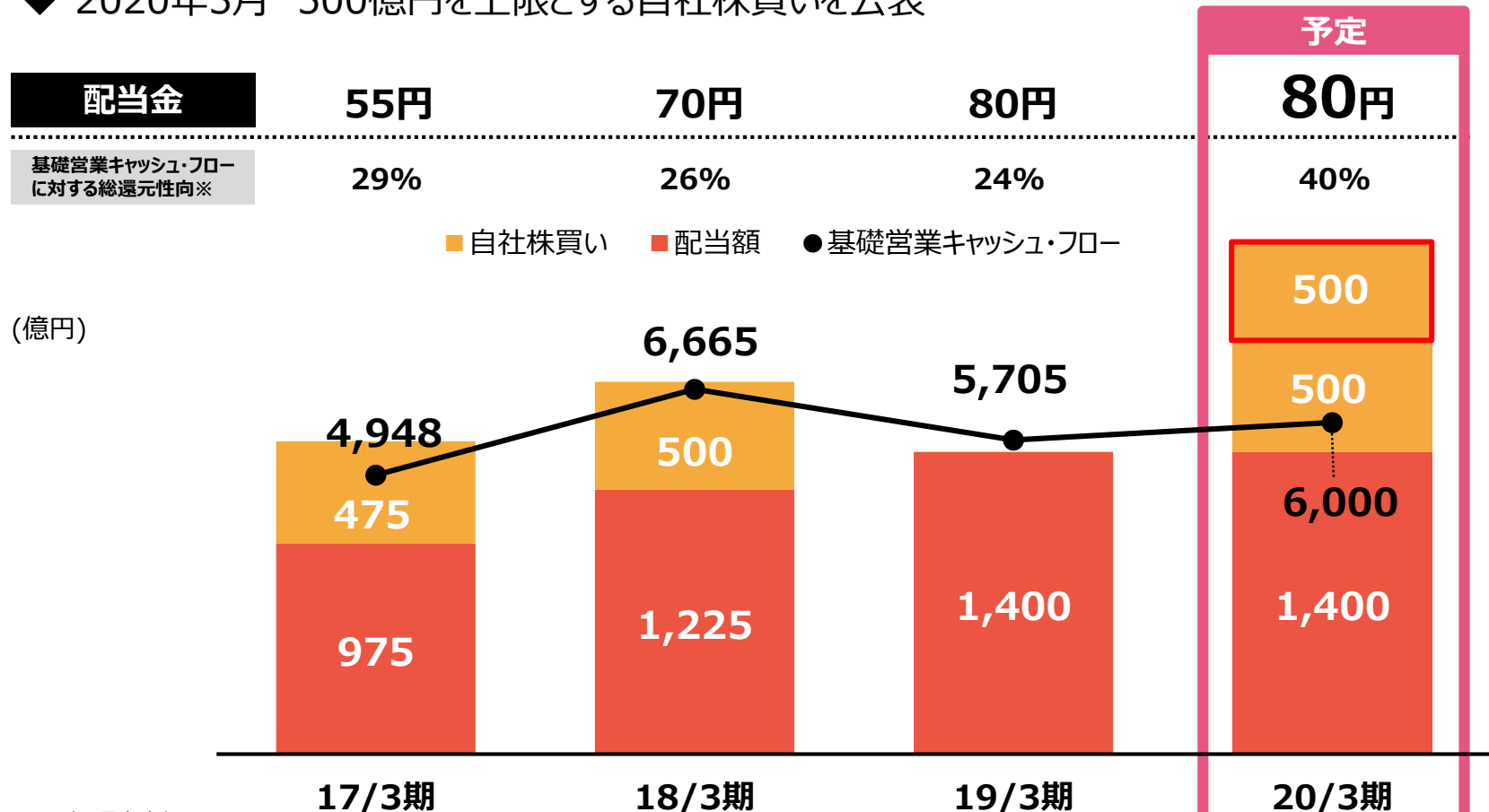
● 基礎営業キャッシュ・フロー ■ 金属資源・エネルギー ■ 機械・インフラ ■ 化学品 ■ その他事業分野 ■ 本部及び消去



5.株主還元

株主還元方針

- ◆ 2020年3月期の年間配当金予定は80円/株、中間配当は40円/株
- ◆ 2019年10月末～ 500億円を上限とする自社株買いを実施（20年2月末に終了）
- ◆ 2020年3月 500億円を上限とする自社株買いを公表



(2019年3月末時点)

※株主還元総額(配当+自社株買い)÷基礎営業キャッシュ・フロー



MITSUI & CO.

【メール配信サービスご登録のご案内】

ご登録頂くと、当社ウェブサイトに掲載される当社の重要な案件内容を、公表と同時に自動でメール受信できます。

携帯・PCアドレスの登録が可能です。

お手持ちの携帯やタブレットなどで下記のバーコードを読み取って頂くか、当社ウェブサイトの「IRメール配信サービス登録画面」にてご登録下さい。



IRメール配信サービス登録画面

<https://www.mitsui.com/jp/ja/ir/support/mail/index.html>

当社ウェブサイト 投資家情報ページ

<https://www.mitsui.com/jp/ja/ir/index.html>

【ご注意】

本資料にて提供されているデータや将来予測は、本資料の発表日現在の判断や入手している情報に基くもので、種々の要因により変化することがあり、これらの目標や予想の達成、及び将来の業績を保証するものではありません。また、これらの情報が、今後予告なしに変更されることがあります。従いまして、本資料およびこれらの情報の利用は、他の方法により入手された情報とも照合確認し、利用者の判断によって行なって下さいようお願いいたします。本資料利用の結果生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負いません。

以下の事象が、当社及び連結子会社の事業、経営成績及び財政状態に悪影響を及ぼす可能性があります。

- 景気減速による、貿易額や物流の減少
- 原油、鉄鉱石、石炭、銅などの商品市況の予想外の変動
- 為替変動
- 顧客や事業に係る与信リスクの顕在化
- 金利の変動
- 固定資産の資産価値の下落
- 国内外の株式及び債券相場下落による年金費用の増加
- 金融市場の混乱や当社格付け引き下げ、金融機関及び機関投資家の投融資方針変更
- 株式市場の大幅な下落による投資ポートフォリオの毀損
- 繰延税金資産の回収可能性の判断の変更に伴う繰延税金資産の減額
- 事業活動および資産が集中する特定地域における事業の低迷
- 収益性の低い関係会社の再編・撤退の遅延
- 第三者との合併事業あるいは第三者に対する戦略的投資の失敗
- 金属資源や石油・ガスの探鉱・開発・生産事業において、コストやスケジュール、埋蔵量が想定と異なること、及びオペレーターによる事業運営が適切に行われないこと
- 競合他社との厳しい競争
- 新規事業に対して投入すべき人的資源をはじめとする経営資源の制約による市場参入の機会喪失
- 環境関連の法令・規制
- 法令の変更や政府との契約条件の一方的変更
- 従業員による不正行為
- 適正な財務報告に係る内部統制が維持できないこと
- 気候変動や自然災害
- 予期せぬ情報システム障害や内外からの不正なアクセス・攻撃による情報セキュリティ事故

なお、旧三井物産と現在の三井物産には法的継続性はなく、全く別個の企業体です。

360° business innovation.



MITSUI & CO.